

<p>事案名</p>	<p>むつ市の事案（青森県2-2）</p>
<p>分類</p>	<p>生産・保有 廃棄・遺棄 現在の状況</p>
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料1の2〔1〕</li> <li>・『相模海軍工廠』1984年〔2〕</li> <li>・「毒瓦斯及其ノ充填兵器処理ニ関スル件」昭和20年9月〔3〕</li> <li>・「日本海軍ニ於ケル化兵戦関係概況」〔4〕</li> <li>・『大湊警備府沿革史 北海の護り』〔5〕</li> <li>・「局地終戦処理概報」第2号 自昭和20年9月17日 至昭和20年10月6日〔6〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年8月29日〔7〕</li> <li>・「陸奥湾内の毒ガス弾等の投棄所在確認調査等に関する資料」昭和47年7月〔8〕</li> <li>・『読売新聞』昭和47年7月10日〔9〕</li> <li>・証言〔10〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年9月30日〔11〕</li> </ul>
<p>資料内容概要</p>	<p>終戦前後、現青森県むつ市大曲地区に中身不明のドラム缶数10本が、軍人によって砂地に埋設された。なお、軍事史研究家の証言として、火薬類の原料をドラム缶ごと捨てたことは考えられるとの証言がある。また、青森県下北郡大湊町には、旧海軍大湊警備府が存在した。終戦時に、大湊地区には、2,000発の毒ガス弾が保有されており、終戦後に陸奥湾に海洋投棄された。</p> <p>生産・保有情報〔大湊地区〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦時（昭和20年）大湊警備府には、毒ガス弾2000発が保有されていたと記載されている〔1〕。</li> <li>・昭和20年9月9日における大湊の瓦斯充填兵器の現在高は、イペリット充填爆弾約3000発が保有されていたと記載されている〔2〕〔3〕〔4〕。</li> <li>・昭和20年8月31日付で大警司令部が纏めた保有状況によると大湊（航空廠）では、60キロ毒ガス弾200個が保有されていたと記載されている〔5〕。</li> <li>・終戦時に米側が大湊に関して「毒瓦斯爆弾3000個在りとの情報アリ」とのことで、日本側に処分の状況を質問する記述がある〔6〕〔7〕。</li> <li>・戦史研究家の研究によれば、「大湊海軍の毒ガス弾は、全て永下ずい道に保管しており、終戦直前に60kgイペリット弾2000発が保有されていた」と記述されている〔7〕〔8〕。</li> <li>・旧軍関係者（元海軍一等水兵）の証言として、「終戦時に大湊</li> </ul>

	<p>航空隊の爆弾類処理班員として爆弾類の確認や処分作業を担当した。特殊爆弾（毒ガス弾）2000個がずい道内弾薬庫に保管されていたが全部がイペリットではなかったと思う。毒ガス弾は、糜爛性、クシャミ性、催涙性の三種であったと思う。そのうち、糜爛性（イペリット）は、約500個と記憶している。毒ガス弾は、愛知県豊橋市の海軍工廠より配布されたものである。なお、三沢爆撃隊にも若干配置されていたと思う」と記載されている〔7〕〔8〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧軍関係者（元大湊防備隊甲板下士官）の証言として、「毒ガス弾が大湊にあったことは、事実。宇曾利爆薬庫に特殊爆弾等が格納されていた。（これは、終戦時爆破され、現在大湊海上自衛隊では立入禁止区域にしている。）」と記載されている〔7〕〔8〕。</li> <li>・旧軍関係者（元海軍大佐大湊軍需部長）の証言として「ガス弾なるものは終戦に当面し、大湊に疎開させられたか、または、野辺地弾薬庫に終戦前後格納したものではないかと思う」と記載されている〔7〕〔8〕。</li> <li>・旧軍関係者（元大湊警備府司令長官）の証言として、「大湊警備府に毒ガス弾が持ち込まれたのは、昭和20年8月17日か18日頃。5000から6000トン級の輸送船2から3隻で重さ60キロの毒ガス弾2000発が到着した。2000発全部がイペリットだった」と記載されている〔9〕。</li> </ul> <p>廃棄・遺棄情報〔大曲地区〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証言によると、証言者（元海軍2等兵）は、終戦前後、現むつ市大曲地区の国道279号線から海側にトラックでドラム缶（中身不明）数10本を2回にわたり運び込み、砂地に埋設する作業に5～6人の軍人が上官の指示に従って行った。詳細な内容は聞かされていない。当時埋設場所には、全部で100～200本程度のドラム缶があったと述べている〔7〕〔10〕。</li> <li>・証言によると、証言者（軍事史研究家）はむつ市大曲地区は通常の火薬等の加工を行っていたので、火薬類の原料をドラム缶ごと海岸に捨てたことは充分考えられると記載されている〔7〕。</li> </ul> <p>現在の状況〔大湊地区〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・永下ずい道は、一時通り抜けにし、一般道路となっていたが危険なため、むつ市の管理により鉄扉等を設置のうえ、施錠し封鎖されている〔11〕。</li> <li>・宇曾利弾薬庫は、爆破済みで現在は、海上自衛隊大湊基地の弾薬整備補給所となっている〔11〕。</li> </ul>
--	--